

単元計画(中学校)

第3学年 総合的な学習の時間指導計画

大間々町立大間々中学校 第3学年

1 単元名「大間々町活性化プロジェクト」 ～ 残そう！大間々 創(つく)ろう！大間々 ～ (全指導時数 30 時間)

中学校3年 地域 ア

地域社会の現状や問題点を政治、経済、産業など、多面的、多角的な視点でとらえ、分析・判断し、自分たちでできることを考え実践しようとする。

2 単元設定の理由

(1) 生徒の実態

本校の総合的な学習では、1年の時に、「福祉」を主テーマに、ブラインドウォークや高齢者体験、車いす町探検などの体験学習や高齢者施設訪問、募金活動、町内清掃などのボランティア活動を通して、大間々町における福祉の取組とそれにかかわる人々の取組について学び、自分たちにできることを考え行動できるようにしてきた。

2年の時は、進路と職業を主テーマに、大間々町で働く人々・職場・職業について福祉政策の現状と課題を見いだして調べ学習を行ったり、実際に大間々町を中心とした職場体験を行い、職業と進路について考えるとともに、職場という視点から、大間々町を見つめることができた。また、今の自分にできることを将来を見通した視点で考え、行動するようにしてきた。

3年の1学期は、大間々町役場の議会記録をもとに大間々町の課題について学び、ほかの市町村の取組について調べる活動を行ってきた。

生徒は、体験を通じた学習や書籍やコンピュータを使っただけの調べ学習では、学習への興味・関心も高く、積極的に活動することができた。また、体験学習や調べ学習では、地域の人たちのふれあいを通して、話し方や接し方についても十分ではないが学んできた。さらに、調べた事柄を、新聞やプレゼンテーションとしてまとめて、発表する経験もしてきた。

そして、2年半の学習を通して、大間々町を学びの中心としてきた結果、生徒の町に対する関心も高まり、郷土を愛する気持ちも育ちつつある。

しかしながら、体験活動や調べ活動に比べると、まとめて発表する活動になると生徒の意欲や関心が少しずつ低下してくるよう感じられる。これは、一つには、体験したり調べたりすることで満足してしまい、学習の深まりを意識できていないこと、二つ目には、まとめて発表したことがその後の学習や生活に生かされている実感も持てないことなどが問題ではないかと考えられる。

また、体験活動を通して学び、生かしていこうとする学習や調べ学習をもとに、自分たちだけで課題を解決しようとする提案を考える学習はたくさん経験してきたが、調べたり学んだことから新たに課題に気付き、それを解決していこうといった学習や校外の専門家や有識者の方に意見を聞き、自分たちの考えをさらに高めていこうといった学習などの学びを深めていく経験は、少ない。

そこで、自分たちの住む大間々町の人々の意見や考えを実際に聞き、自分たちにできることを考え、地域の人々と検討会を持ちプロジェクトを実行していこうとするねらいを持つ「大間々町活性化プロジェクト」を取り入れることは、郷土を愛する気持ちを育て、よりよい町作りのために活動をしているといった充実感をもたせるとともに、学びを深めていくのに有効であると考えられる。

四観点について

- ・ 町についての学習を通して、町への興味・関心はもっている。しかし、商工会や役場、町内の人々が、どのように考えて生活しているのかという視点では、関心をもつものは少ない。また、社会の一員としての自覚をもって、政治経済などの視点から町の現状に関心をもち、積極的に生活していこうとする意欲や態度は十分に培われてはいない。(関心・意欲・態度)
- ・ 町の特長や問題点などについて、自分なりの考えや理解はあるが、それぞれについて、政治・経済・産業・伝統などの視点をもって客観的にとらえて考える経験をしてきていない。(思考・判断)
- ・ コンピュータを使った調べ学習やプレゼンテーションでは、小学校より経験があり進んで取り組むことができた。しかしながら、データを集積し、課題を分析するような活動の経験は少ない。必要な資料を集めたり、重要な事柄を分かりやすく伝えるような経験も少ない。(技能・表現)
- ・ 町の特長や問題点などについて、自分なりの考えをもっている生徒は多い。しかし、根拠をもとに説明することは難しい。町の人々がよりよい町作りについて考え行動していることについては、接する機会も少なく気付くところまでではできていない。(知識・理解)

(2) 教師の願い

自分たちをはぐくんだ郷土「大間々」について学ぶことを通して、郷土を愛する気持ちや感謝する気持ちを持って生活していけるようにしていきたい。また、自分たちも社会の一員として、郷土のためにできることを考え行動することを通して、自己の存在感や生きる充実感を学び、感じてほしいと考えている。

さらに、中学3年生になり、社会の状況についても学ぶことができるようになってきている生徒には、政治や経済、産業などの視点から、現実的に物事をとらえ、よりよい社会を築いていく力を高めていきたいと考えている。

また、来年3月には近隣の町村との合併を控えている現在、大間々町の古き良き伝統や現在のよさや町の

特長などに気付き、合併後も地域の特長を生かしていこうとする態度を育てていきたい。

3 単元の目標と評価規準

目標	政治や経済、産業、伝統などの視点から大間々町の特長や問題点について調べる活動を通して、町を活性化するために自分たちでもできることはないかと考え、大間々町でよりよく生活できるようにする。			
評価規準	<p>関心・意欲・態度</p> <p>政治・経済・産業・伝統などの視点から地域の現状をとらえ、現実的な視点で積極的に調べようとする。</p> <p>地域の活性化に向けて意欲的に考え行動し、地域への発信活動や実践に積極的に取り組もうとする。</p>	<p>思考・判断</p> <p>町の特長や問題点を調べる活動を通して、政治・経済・産業などの視点をもとに客観的に解決に向けての新たな課題を見いだすことができる。</p> <p>全国の実践例や町のデータから分析し、町の特長を生かし、問題点を解決する方法を自分なりに考えることができる。</p> <p>自分たちで実現可能なプロジェクトであるかの判断をすることができる。</p>	<p>技能・表現</p> <p>課題解決に向けて、必要とする資料を収集し、活用することができる。</p> <p>自分たちの課題解決の具体的な方法を分かりやすく伝えることができる。</p>	<p>知識・理解</p> <p>地域の特長や問題点について理由をもとに気付くことができる。</p> <p>地域を支える活動の大切さや難しさ、それらに取り組み人々の思いや願いに気付くことができる。</p> <p>町を支えるためには自分を含め、多くの仲間の理解と協力が必要であることを理解できる。</p>

4 学習過程と評価計画

時間	学習活動	支援（方法・内容）	評価規準				評価資料
			関心・意欲・態度	思考判断	技能表現	知識理解	
1	<p>1. 町の活性化という視点で大間々町の現状と課題について自分たちができる方法を考え、学級ごとに調べる。</p> <p>町の人々が望んでいることや課題として考えていることは何かを知るための方法を考える。</p>	<p>・前単元を参考にして、大間々町の人々の視点から課題を考えるようにする。</p> <p>・町の現状をとらえる方法として、インタビューやアンケート、電話聞き取り調査などの方法を考えられるようにする。</p> <p>・町の現状をとらえるためには、商店街の人、福祉にかかわる人、町のお年寄り、若い人などの対象と町の活性化という視点で福祉政策の現状と課題、大間々町の商店街の現状や課題、観光や町の特長などの項目を考え、調査の対象と項目を明確にできるようにする。</p> <p>・「・・・の人、百人に聞きました。」「・・・について百人に聞きました。」などのキャッチフレーズを用いて、生徒の興味を高める。</p> <p>・評価基準を事前に作成して生徒に示すことで、生徒の意欲を高めるとともに自己評価力を身に付けるようにする。</p> <p>・追究プリント1において、町の人々の意見を調べる方法が3つ以上考えることができないときは、今までの調査の方法を思い出せるようにする。また、全体での発表で気が付いたことを記入できるようにする。</p>					追究プリント1
1	<p>調査に向けて、計画を具体的に考える。</p> <p>・学級内で、前時で考えた調査対象・項目を上げ、協力して調べることができるように分担する。</p> <p>・調査対象によっては、事前に連絡をしておく。</p>	<p>・学級内で調査項目を分担し、全体で活用できるようにする。</p> <p>・調査対象によっては、事前の連絡が必要なことに気付くようにする。</p> <p>・具体的な計画では、目的、内容、対象、理由、時間、方法がしっかりとらえられるようにする。</p> <p>・目標をもち、具体的な計画を立てることができるように、評価基準の視点を示して、目標をもちながら考えさせるようにする。</p> <p>・準備ができれば、連絡を取るようにし、時間がなければ休み時間や放課後を利用して連絡できるようにする。</p> <p>・追究プリント2において、計画がうまく立てられない生徒には、具体的な行動に視点を当てて話し合うようにして計画を明確にできるようにする。</p>					追究プリント2

2	町の現状と課題を調べる。 ・自分の考えた対象と項目について、実際に調べる。	・前時で計画した調査方法で行うことができるように確認する。 ・昼休みに帰りの会を実施し、午後の活動時間を十分に確保する。 ・安全面や態度面に注意するようにする。 ・追究プリント3では100人を目標とするが50人の調査が終わらない場合は、放課後や土日を使って調べることができるようにする。				追究プリント3
2	調査結果をもとに大間々町の現状と課題をまとめる。 ・インタビューやアンケート結果を集計して、町の人々の願いや思いを明確にする。	・インタビューやアンケート結果を集計して、町の人々の願いや思いを焦点化できることに気付くようにする。 ・集計結果を分かりやすく伝えるように工夫できるようにする。 ・例示をすることで短時間で効果的にまとめられるようにする。また、PCや模造紙や画用紙などを使ってまとめることができるようにする。追究プリント4で町の人々の願いや思いに気が付けない場合は、調査の時の様子を振り返ったり、発表した内容の言葉に着目したりできるようにする。				発表資料 追究プリント4
1	調査結果を報告する。	・相手に分かりやすく伝えられるように声の大きさや説明のポイントなどに注意するなどの工夫を考えて発表できるようにする。 ・追究プリント5においてうまく工夫ができない生徒には、各班の発表の工夫に注目して聞くことで自分の発表が工夫できるようにする。				追究プリント5
1	2. 大間々町活性化プロジェクトを検討し、提案書を作成する。 調査結果の報告をもとにして、自分たちができるプロジェクトを考える。	・調査結果の報告をもとに、大間々町の人々の願いや思いを焦点化して、それを解決するという視点で考えられるようにする。 ・政治や産業、経済などの視点からとらえることを確認する。 ・ブレインストーミング法やKJ法の手法を用いて、たくさんの解決法を考えられるようにする。 ・プロジェクトとして、自分たちで実現可能なことやどの人に働きかけるのか、いつ、どこで何をするのかを明確にする。 ・ほかの市町村の取組なども参考にする。 ・追究プリント6につまずく生徒では、大間々町の特長や長所、問題点を課題を焦点化して具体的な方法が考えられるようにする。				追究プリント6
6	近隣の市町村の取組やインターネットを使って同じような取組で成功している例を調べる。 ・市町村へのインタビューやアンケートなどを行う場合は、事前に連絡を取る。	・調査計画をしっかりと立てるようにする。 ・調べ学習にかかわる関連機関へ事前に連絡を取るようにする。 ・追究プリント7につまずく生徒には、調べ方と調べた事柄を明確にできるように分かることと分からないことをはっきりさせるようにする。				追究プリント7
6	調査結果をもとに町を活性化するプロジェクトを検討し計画を立てる。(よみがえれ！わたらせ渓谷鉄道、町のクリーン作戦、町の伝統を残す活動、始めよう！福祉ボランティア、元気な町！大間々など) 実現可能かどうかの検討を加え、現実的なプロジェクトにまとめる。	・調べたことをもとに、具体的なプロジェクトの内容を検討できるようにする。 ・町の特長や課題などの強みと弱みの分析を行い表にまとめる。 ・分析結果と町の人々の願いや自分たちの願いと照らし合わせることにより、より具体的なプロジェクトになるようにする。 ・実現可能かという視点で、プロジェクトを検討させて、より現実的なものとする。 ・追究プリント8でアイデアが浮かばない生徒には、ブレインストーミング法を取り入れるようにする。 ・プレゼンテーションを工夫がうまくできない生徒には、伝えたいことを明確にした絵本作りを事前準備として取り組ませて相手に分かりや				追究プリント8前半 追究プリント8後半

		すぐ伝えることができるようにする。				
4	3. 大間々町活性化プロジェクトの実行に向けて取り組む。 検討会を実施し、実践計画についてのプレゼンテーションを行い、多くの人の理解してもらえらるるようにする。 町の活性化にかかわる人々の話をもとに検討会を振り返り気付いたことをまとめる。	・商店街の人や福祉関係機関、役場、学校長などをむかえて、自分たちのプロジェクトをプレゼンテーションできるようにする。 ・検討会では、それぞれの立場で生徒のプロジェクトについて、実現可能かどうか、有効であるかどうかという視点で意見を述べてもらう。 ・プロジェクト報告書で、実現できるような具体的な方法ができない生徒には、資金や時間、場所などの具体的な視点をもとに経済面、政治面について考えられるようにする。 ・振り返りカードがなかなか書けない生徒には、今までの活動やゲストティーチャーから学んだことを話し合せて気付くようにする。				プレゼンテーション資料 振り返りカード1
2	検討会をもとにして、プロジェクトの再検討を行う。 プロジェクトの最終報告を行う。	・前時を参考にもう一度プロジェクトの見直しを行うことを知らせる。 ・よりよいプロジェクトになるように検討を加えた上で実行に向けて準備を行うようにする。 ・問題点や課題が出されたプロジェクトについては、対策や新たな方法を検討させて、課題の解決を図るようにする。 ・追究プリント9において、自分の新たな課題に気付けない生徒に対しては、経済面や地域への貢献度に着目して、自分のプロジェクトを検討できるようにする。 ・プロジェクト最終報告書で実現性が見られない生徒には、具体的な取組を意識しながら机上での話し合いを深めるようにする。				追究プリント9 プロジェクト最終報告書
4	広報活動や実践活動に取り組む。	・発表と行動を実際に行えるように環境を整える。 ・実際に活動を行い、自分の活動を振り返る。 ・振り返りカード2がなかなか書けない生徒には、今までのファイルを見直して自分の行動と気付くきを再確認できるようにする。				行動の様子 振り返りカード2

5 評価基準（ルーブリック）

学 習 活 動	評価 規 準	学習活動における 具体的な評価規準	評価 資 料	評価基準		
				A (3)	B (2)	C (1)
1. 大間々町のために自分たちにできることを考え、学級ごとに活動の内容を決定する。 大間々町の人々が望んでいることや課題として考えていることは何かを知るため、自分たちはどのようにしていけばよいかを考える。	関 心 欲	大間々町の人々が望んでいることや課題として考えていることを知るためにはどのようにしていけばよいかを積極的に考えようとしている。	追 究 プ リ ン ト 1	自分たちができることを三つ考えることができる。	自分たちができることを一つ考えることができる。	自分たちができることを考えることができない。
調査に向けて、計画を具体的に考える。	技 能 表 現	調査に向けて、具体的な計画を立てることができる。	追 究 プ リ ン ト 2	調査の対象・項目・方法が明確に書かれている。	調査の対象・項目・方法のうち、2点について明確に書かれている。	調査の方法が書かれている。
大間々町の現状と課題を調べる。	技 能 表 現	大間々町の現状と課題を調査計画どおりに調べることができる。	追 究 プ リ ン ト 3	調査数が 50 以上である。	調査数が 25 以上である。	調査数が半数に満たない。
調査結果をもとに大間々町の現状と課題をまとめる。	技 能 表 現 知 識 理 解	調べたデータをもとに、分かりやすく伝えるように工夫をしている。 大間々町の人々の願いや課題に対する考えに気付くことができる。	発 表 資 料 追 究 プ リ ン ト 4	分かりやすく伝える工夫が三つある。	分かりやすく伝える工夫が二つある。	分かりやすく伝える工夫がある。
				町の人々の願いや課題に対する考えに五つ気付くことができる。	町の人々の願いや課題に対する考えに三つ気付くことができる。	町の人々の願いや課題に対する考えに一つ気付くことができる。

調査結果を報告する。	技能表現	調査結果を分かりやすく伝えることができる。	追 究 リ ト 5	・声の大きさや速さなどの工夫が三つ以上できている。	・声の大きさや話方の工夫が二つできている。	・声の大きさや話方の工夫が一つ以下である。
2. 大間々町活性化プロジェクトを検討し、提案書を作成する。 調査結果の報告をもとに、自分たちができるプロジェクトを考える。	思考判断	地域の活性化に向けて、解決方法を積極的に考えることができる。	追 究 リ ト 6	解決方法を複数考えることができる。	解決方法を一つ考えることができる。	解決方法を考えることができない。
近隣の市町村の取組やインターネットを使って同じような取組で成功している例を調べる。	技能表現	PCを使ったり、近隣の市町村に取材に言ったりして、調べることができる。	追 究 リ ト 7	三つの方法で調べることができる。	二つの方法で調べることができる。	一つの方法で調べることができる。
調査結果をもとに町を活性化するプロジェクトを検討し計画を立てる。 実現可能かどうかの検討を加え、現実的なプロジェクトにまとめる。	思考判断 思考判断	活性化するプロジェクトの具体的な特長を考えることができる。 プロジェクトが実現可能かどうか判断することができる。	追 究 リ ト 前 半 追 究 リ ト 後 半	プロジェクトの具体的な特長を三つ考えることができる。 具体的な取組の中に予算や必要な手続き、実現した姿が三つ明確になっている。	プロジェクトの具体的な特長を一つか二つ考えることができる。 具体的な取組の中に予算や必要な手続き、実現した姿のうち、一つ以上が明確である。	プロジェクトを考えることができない。 具体的な取組の中に予算や必要な手続き、実現していない。
3. 大間々町活性化プロジェクトの実行に向けて取り組む。 検討会を実施し、実践計画についてのプレゼンテーションを行い、多くの人に理解してもらえようとする。 町の活性化にかかわる人々の話をもとに検討会を振り返り気付いたことをまとめる。	技能表現 知識理解	自分のプロジェクトをプレゼンテーションをおこない、分かりやすく伝えることができる。 大間々町の活性化に向けて、役場や商工会などの人々の思いや願いと経済面、政治面などの難しさに気付くことができる。	プレゼンテーション 資料 振 返 り リ ー ド	伝えるための工夫を複数使っていて、発表している。 人間社会の仕組みや人々との関係、経済面に気付いている。	伝えるための工夫を一つ使っていて、発表している。 人間社会の仕組みや人々との関係、経済面に気付いている。	伝えるための工夫がない。 人間社会の仕組みや人々との関係、経済面に気付いている。
検討会をもとにして、プロジェクトの再検討を行う。 プロジェクトの最終報告を行う。	思考判断 思考判断	検討会をもとに、プロジェクト報告書を再検討している。 プロジェクトの実現に向けての最終報告書を作成している。	追 究 リ ト 9	検討会で指摘された項目の見直し改善を三つしている。 実現に向けて具体的に計画を立てている。	検討会で指摘された項目の見直し改善を二つしている。 実現に向けての課題がある。	検討会で指摘された項目の見直し改善を一つしている。 実現に向けての取組が見られない。
広報活動や実践活動に取り組む。	関心欲 知識理解	町の活性化に向けて、積極的に行動している。 町の活性化について、町の人々の取組に気付き自分のこれからの生き方について考える。	見 取 り 振 返 り リ ー ド 2	活性化に向けて、複数の解決方法に取り組もうとしている。 町の人々に向けて、町の人々の取組に気付き、自分の行動を考えようとしている。	活性化に向けて、一つの解決方法に取り組もうとしている。 町の人々の取組に気付く。または、これからの自分の行動について考えることができる。	活性化に向けての取組を行っていない。 町の人々の取組や自分の行動について考えることができない。